

和光市協働事業完了報告書

25年 3月31日

和光市長 様

団体名 白子大坂ふれあいの森の会

所在地 和光市白子 2-54

代表者名 堀 文雄



平成24年 5月 1日付けで契約を締結した協働事業が完了しましたので、和光市協働事業提案制度実施要綱第12条の規定により、下記のとおり報告します。

記

1 協働事業の成果

事業名	和光市大坂ふれあいの森の保全と活用に関する委託契約
事業費総額	320,060 円
事業期間	平成24年 5月 1日から 平成25年 3月 31日まで
実施場所	白子大坂ふれあいの森周辺
参加者数	1004人
事業実施内容及びその成果	別紙報告書のとおり

2 添付書類

- (1) 和光市協働事業収支決算書（様式第9号）
- (2) 協働事業の実施に要した費用の出納簿等の写し
- (3) その他市長が必要と認める書類

和光市協働事業収支決算書

団体名	白子大坂ふれあいの森の会
-----	--------------

(収入)

区 分	決算額(円)	説 明
和光市協働委託費	320,000	市民緑地「おおさかふれあいの森」の保全と活用事業費
負担金	60	会による負担金
合 計	320,060 円	

(支出)

区 分	決算額(円)	内 訳
ガイドブック	199,500	ガイドマップ制作費
謝礼	16,000	観察会、フォーラム等
交通費	14,046	講師交通費等
保険料	1,500	レクリエーション保険料
材料費	40,548	表示板、杉材、集成材等
資料作成費	21,021	インク、USBメモリー、SDカード等
文具代	27,445	ルーズリーフ、ファイル等
合 計	320,060 円	
(うち対象外経費)		

2012 年度市民提案事業

「大坂ふれあいの森の保全と活用」に関する報告書

白子大坂ふれあいの森の会 会長 堀 文雄

「白子大坂ふれあいの森の会」は、地元住民が中心となり、日常的な保全・管理を行い、生態系の調査やそれを活かす保全活動により、都市部における貴重な斜面林と湧水の一体的な環境を保持する活動を継続している会である。

大坂ふれあいの森の生態系について

大坂ふれあいの森は、環境基本計画において重視したグリーンベルトの要の緑地・湧水地であり、和光市の歴史・文化的環境を持つ白子地区の中核として、総合的な視点での維持管理が求められている。

●斜面は主に落葉樹に覆われ、下部にはムクノキ、その上部にイヌシデ帯やクヌギ林が見られる。純自然林ではないが、これらの樹種は、斜面の斜度や地下水面からの距離により棲み分けが進んだものと見なされる。落葉樹林の林床には春植物（カタクリやイチリンソウなど）の群落を見ることができる。春植物が落葉樹の葉が茂る前の日照を利用して生育するという巧みな生態系の典型を観察することができる。また、カタクリは氷河期の生き残りともいわれ、北日本や山地に多生するが、関東の平野部では、夏季にも地温の上昇が少ない地下水脈に近い北～北東斜面のみに生息する貴重植物として、地勢と関連する植生を観察できる。

●大坂ふれあいの森下部には湧き水があり、湧水の流れには清水に棲むヤゴやヘビトンボ、カワニナ、カワモズクなどを見ることができ、都会では希少化したオニヤンマの生息地ともなっている。また、貴重種である「オオゲジ」（皇居で生息が確認）を発見した。和光市のみならず貴重な自然遺産であり、その環境維持を会で行っている。

●畑跡地の草地

かつて畑として使用していた所では、毎年生育してくる植物が著しく異なる。時期によっては植物の背丈が高く茂る状況にあり、草刈りを行う必要がある。生育する生態系と手入れの関係を調べ、利用しやすいように保全を進めている。

保全・管理と調査および活用

●調査を活かした保全と管理

1999年の和光市白子湧水自然環境調査の植生調査をもとに、本年9月から樹木の毎木調査を行い、森の推移の検討を進めている。また湧水調査および水生生物調査を行っている。これらの調査を保全活動に活かしている。実際のフィールドでは、調査から得られた知見により、間伐、草刈り、貴重種の保護、斜面の保護、落ち葉のたい肥化、水路の手入れと湿地の維持、生き物の観察と保護を定期的に行い、生態系の持続可能な環境を保っている。更に地元会員が多いことによ

り、日常的に清掃や見まわりを行い、安全で清潔な環境維持も極めて重要な活動であり、それにより市民が身近な自然に触れ合える環境が維持できる。

多くの利用者に解りやすいように看板設置を行い、現在さらに充実を図っている。

都市部の緑地では、放置するとゴミ捨て場になりやすく、治安、衛生上問題になるが、地元住民が参加し適度に手を加え、荒廃を防ぎ、外来種の繁茂を防ぐことができる。

当会は、設立当初より、NPO 法人 和光・緑と湧き水の会との連携により活動し、当法人が行ってきた、「白子地区湧水自然環境調査」およびその後の和光市内（新倉ふれあいの森や和光樹林公園ドングリの森等）での保全活動の経験を導入し、大坂ふれあいの森の生態系保全の活動に生かしている。

●ガイドマップの作製と出版（2013年1月出版）

「大坂ふれあいの森」を市民に知ってもらうため、当地の特色を来訪者に伝えるため、また、小中学校の生徒たちの自然や地域学習の資料となることなどを考慮してガイドマップを作製した。所在地、地理、歴史、生態系、湧水などについて、簡潔に盛り込んだ。

●活用

安全で清潔、且つ自然豊かなふれあいの森となり、市民の立ち寄りの増加がみられる。子供たちにとっては、自然観察の場所、生態系の有様や、十数万年の大地の成り立ちと湧き水の仕組みを観察できる重要な場所として活用されている。市内外から多くの見学者があり、都市部の自然として感動を与える場所となっている。

地元住民が保全にかかわることで、そこでの交流や環境に対する意識の醸成が得られ、ひいては健康増進や福祉にも効果的であることもふれあいの森の有効性を示している。

参考資料

和光市白子地区湧水地自然環境調査業務委託報告書、

和光市都市整備課・日本自然保護協会（2001）

埼玉県和光市白子・大坂ふれあいの森の地生態学的調査報告書、

小泉武榮、佐々木夏来（2012）

身近な自然との触れ合いによる環境理解の増進Ⅰ-地理、生態系を知るために埼玉県和光市での事例-、高橋勝緒他（NPO 法人和光・緑と湧き水の会）、文理シナジー16、145-150（2012）

身近な自然との触れ合いによる環境理解の増進Ⅱ-埼玉県和光市における身近な自然の役割と環境保全活動-、高橋勝緒他（NPO 法人和光・緑と湧き水の会）同上16、151-156（2012）

冊子 「和光の身近な自然探訪 増補版」、 「和光の緑と湧き水」（2004年1月）



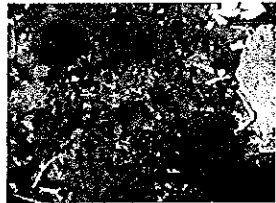

マップ 「白子湧き水ふれあいマップ」、（発行NPO 法人和光・緑と湧き水の会）（2006年12月）


大坂ふれあいの森ガイドマップ （発行白子大坂ふれあいの森の会）（2013年1月）

2013年3月31日

2012 年 5 月～2013 年 3 月活動記録

以下に会の保全と活用の活動状況を報告する (※印は和光・緑と湧き水の会との共催)

番号	月日	項目	内容
5.17 定例 保全		参加 14 名 	水路の保全活動 定期活動中住人に水車の話を聞く 貴重種「ホトトギス」の保全区画を設定した。都市部では珍しい自生地であるため、保護していく。
5.25 環境 パネル 展		来場者多数	和光市環境課主催事業に参加 大坂ふれあいの森の活動紹介パネルを展示コーナーに展示した。 美しくわかりやすいと好評。
6.3. 定期的な 調査 ※	 	参加 8 名	生き物や水量、水質を定期的に調査を行っている。 さまざまな種類の昆虫が見つかった。昆虫リストに集めた。
6.21 定例 保全	 	会員 10 名	水路に「ミゾホオズキ」が自生。 「ビワ」や「カキ」の木があり、熟すと地上に落ち蝶が集まる。 草刈りと斜面ササ刈り、清掃
7.4 調査 カワ モズク 発見※	 カワモズク 顕微鏡写真 	会員 8 名 	定例の生き物、水量、水質調査 「白子ビオトープ観察会」の準備 房状カワモズクがコンクリートに付着し繁茂しているのを発見。 巨大なヘビトンボも石の下部で発見。落ち葉にはカワニナが多数。
7.8 白子 ビオ トープ 観察 会 セミ ナー ※	 	参加者 大人、子供 親子 28 名 大坂ふれあいの森と富沢湧水の生き物と地層見学 午前セミナー	大坂ふれあいの森の水路中に生育している「カワモズク」を始めてみる子供達。 水辺にはサワガニ、ヘビトンボ、カワニナなど生き物の宝庫。 地質の歴史、 佐々木夏来さんの有意義な報告会 

<p>7.10 看板 作り ※</p>		<p>会員 4名</p>	<p>水路中に湧水特有のカワモズクが生育し、房状にコンクリートに付着しているのを4日に確認し、看板を設置した。 2001年の報告書にあるように、湧水のある緩やかな水流、低質が固い石やコンクリートなど、適度の日照等の環境づくりが生育に重要</p>
<p>7.25 高校 教師 巡検 案内 ※</p>		<p>参加者 30名 ガイドとして 3名</p>	<p>埼玉県社会科高校教師の巡検「武蔵野台地末端部の巡検」として、和光市白子地区を案内し、湧水の地層が見える場所として、湧水の仕組み、湧き水の利用形態や生態系を観察。大変有効であった。</p>
<p>7.27 カワ モズ ク 検 証※</p>		<p>参加者 近隣の方も参 加し5名</p>	<p>埼玉県絶滅危惧植物調査団原口氏に、大坂ふれあいの森でカワモズクの調査を依頼しました。現地で資料を採取、顕微鏡で観察し、チャイロカワモズクと同定。</p>
<p>8.9 定例 の保 全</p>		<p>会員 15名</p> 	<p>定例の保全・高校生も参加ミドリヒメワラビ等を刈り、草地の保全と清掃、竹間伐を行った。カワモズクについて資料作成し会員に報告し市に提出。</p>
<p>9.20 定例 保全</p>		<p>会員 13名</p>	<p>草丈が高い草の間引き。斜面上部のアズマネザサを刈り取り。道路清掃等の作業。作業後大坂ふれあいの森ガイドマップの素案作成し検討。</p>
<p>8月～ マッ プ作 製 継 続※</p>	 <p>マップ試作</p>	<p>会員 延べ 20名</p>	<p>マップ用データ集め マップ作製検討会 マップ中の説明文作成 デザイン試作</p>
<p>9.16 9.30 植生 調査 ※</p>		<p>会員 延べ 12名 距離、直径、 斜面の傾斜を 計り地図作図</p>	<p>12年前に行った斜面林の植生調査後、今回との比較をし、変化を知ろうと、樹木直径3cm以上の毎木調査を行った。浦和観察会の若山正隆さんと協働で斜面林を実施。</p>

<p>10.16 自然 と歴史 ツアー ※</p>		<p>参加者 30名 2班で、成増から白子宿、大坂ふれあいの森、富沢湧水、熊野神社</p>	<p>南西部地域のふれあい街道事業「和光の自然と歴史ツアー」のガイドとして参加。湧水案内は有意義だった</p> 
<p>10.18 定例 保全 と市長 の視察</p>		<p>市7名 会15名 和光市長、副市長、環境課長大坂ふれあいの森視察。保全が進んでいる様子を視察された。</p>	 <p>高橋勝緒さんがカタクリ生育、地層が見られる崖の重要性を説明。最後にカワモズクを視察。市長より良い環境整備で継続が望ましいとのこと。さらに、生態系や地層等に関して和光市の環境教育への活用が望ましいとのことを伺った。</p>
<p>10.21 市民 活動 見本市 ※</p>		<p>会員 5名 一般参加者 約 100名</p>	<p>パネル展示と口頭発表。特に「大坂ふれあいの森」の自然環境の素晴らしさを紹介。当会のパネルは好評です。 まだまだ「ふれあいの森」が知られていないので展示は有効でした</p>
<p>11.18 市民 祭り ※</p>		<p>会員 10名 一般 約 300名</p>	<p>恒例の湧き水の会のテントでは、和光の自然、大坂ふれあいの森や新倉ふれあいの森を紹介。自然素材の工作も大人気。</p>
<p>12.6 1.17 植生 湧水 調査 ※</p>	 <p>雪の大坂ふれあいの森で最後の植生調査 樹木QRコード作成。</p>	<p>会員 10名</p>	<p>湧水調査・乾期は水量が減少</p> 

11・15 12.20			会員 10名 落ち葉の季節は毎週落ち葉掃き。	12年最終保全。整備が進む	
1.28 ガイドマップ完成		マップ完成し、大坂ふれあいの森に看板整備	会員 約20名	白子湧水群と大坂ふれあいの森の美しいカラー版ガイドマップ完成 湧き水と斜面林の生態系、貴重動植物、周囲の環境、歴史など。 配布し広める活動が必要。	
2.3 湧き水サミット※			会員 7名 一般 約100名	富士見市「西鶴瀬交流センター」南西部地域交流まつり 「湧き水サミット」開催 新ガイドマップの紹介、配布	
2.12 セミナー 見学会	和光の身近な自然 「大坂ふれあいの森」セミナー 新ガイドマップ完成記念講演と見学会 		会員 15名 市職員 4名 一般 40名 和光市の協働事業で都市整備課、環境課も出席	新ガイドマップで現地案内。 市民緑地「大坂ふれあいの森」保全と活用が実践され好評。	
3.4 白子小学校訪問※		小野寺事務主幹にご案内され、校内見学。 4月の桜まつりにも参加。	会員 3名 白子小学校 鈴木直幸校長に面会し マップ120部	白子小学校は、周囲に特徴的な湧き水に恵まれた歴史のある学校。 多さ名ふれあいの森の新ガイドマップ紹介と授業に役立つよう120部を配布。校内も見学。	
3.21 定期保全貴重種確認	大坂ふれあいの森は自然と人の交流の場所。カタクリも開花  		会員 13名 都市整備課 2名 環境課 2名	階段を整備して安全確保。 湧き水や斜面林の保全が進んでいます	
3.30 和こたん※		「白子の湧水群と歴史発見ツアー・草もちづくり」には親子で参加。	会員 10名 ぼけっとステーション4名 一般 30名	湧水や歴史再発見、コミセンで季節の草餅づくりを楽しみました。	

別添資料 2

白子大坂ふれあいの森の会

2012 年度市民提案事業「大坂ふれあいの森の保全と活用」に関する報告書 2013 年 3 月

大坂ふれあいの森の動植物

貴重植物および藻類

		
カタクリ 準絶滅危惧種	ソバナ	タチツボスミレ
		
ミゾホオズキ	チャイロカワモズク 絶滅危惧種	シュンラン 準絶滅危惧種
		
ボントクダデ	キツネノカミソリ 準絶滅危惧種	キハギ
		
ミドリヒメワラビ	イチリンソウ 準絶滅危惧種	キツネノカミソリ (実)
		
サイハイラン 準絶滅危惧種	ホトトギス 絶滅危惧Ⅱ類	ヤブミョウガ

大坂ふれあいの森にすむ生き物



サワガニ



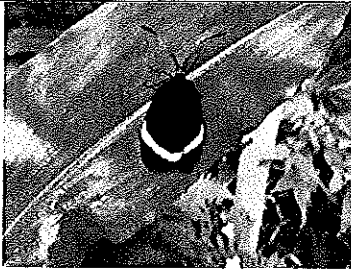
巨大なヘビトンボ成虫



ヘビトンボ幼虫 カワニナ



アブ



ホタルガ



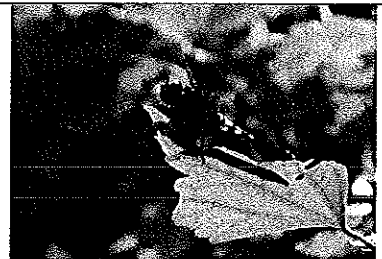
カブトムシ (メス)



オオシオカラトンボ (オス)



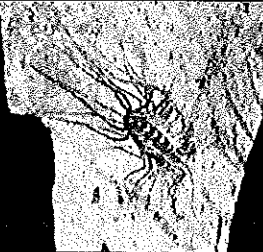
アキアカネ



オオシオカラトンボ (メス)



オニヤンマ



オオゲジ



オオゲジ



コカマキリ



ナガサキアゲハ



アオスジアゲハ



コムスジ



クロアゲハ

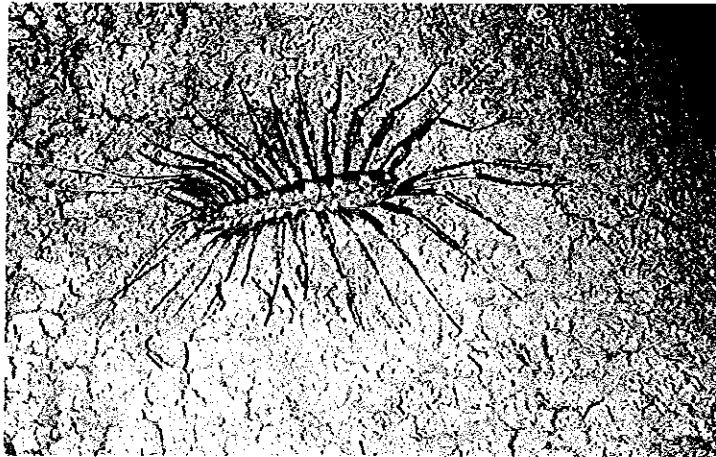


調査中 (ナナフシモドキ)

大坂ふれあいの森で発見されたオオゲジについて、2012年11月25日の日経新聞に記事が書かれていた。井戸には蓋があり、その中に「オオゲジ」が生息している。(毎月1回地下水の高さを図っている)新聞の記事から、「湿り気があり暗くて隠れやすい森や洞窟などを好み、小さな昆虫などを捕食する。」

サイエンス

Su



木の幹をうごめくオオゲジ (国立科学博物館提供)

都会のオアシス皇居

④ オオゲジ

15対、30本の脚で素早く動くオオゲジ。国立科学博物館の調査で夜、皇居吹上御苑の

大木を懐中電灯で照らすと幹に10匹前後が群がっていることがあったという。ゲジゲジと

不気味? 実はデリケート

も呼ぶ通常のゲジに比べ、大きさは2倍ほど。体長5センチ程度が多いが、長い脚を伸ばすと約15センチに及ぶこともある。

湿り気があり暗くて隠れやすい森や海辺の洞窟の中などを好み、小さな昆虫を捕食する。環境の変化にあまり強くないデリケートな面もあり、コンクリートに覆われた都市では見かけなくなった。皇居は都心に残された貴重な生息場所だ。

見た目は不気味だがおとなしい。1996、2000年度の第1期調査の報告を受けた天皇陛下と紀宮さまは、オオゲジのことをよくご存じだった。「嫌われがちな動物にも目を向けられていることに感銘を受けた」と調査に参加した石井清・独協医科大学教授は振り返る。(おわり)

編集委員 安藤淳が担当しました。

カワモズクについて (報告書は提出済み 2012年8月)

大坂ふれあいの森の湧水の樹から地上のコンクリート上の溝を作ったところに湧き水を流したところ、7月4日に房状の確認ができる状態でカワモズクが生育するようになった。生育状況の画像を紹介する。



1) やや黒みがかった茶色の房が石に付着している7.4。 2) 房の先が長くなり成長し広がった状態。8.9 3) カワモズクの間隔が開く状態で生育9.13

